

QSK
にぬふあぶし

No.297

ね
子の方向の星



2021 みんなねっと東京大会 ONLINE に参加して

2021年10月7日、みんなねっと東京大会 ONLINE に参加しました。コロナ禍で参加人数が少ない中、沖福連より会場やお茶の準備、読谷家族会からは美味しいお菓子の差し入れもあり暖かい時間を過ごせました。

このご時世、「以前のように大きな会場で、多くの人達と出逢う事は難しい」と重々承知をしていますが、「できる事ならもう一度、開会式を待つ間の心地よいざわめきと、あの臨場感を体験したかった」。

白石先生の「身体拘束に伴う事故や職員による患者虐待、また生物学的治療に重きが置かれて心理的ケアの部分が不十分になりがち」というお話に全く同感です。

「退院促進はなぜ進まない？ 悪い病院はなぜ無くならない？」現状は悲しすぎます。

斎藤先生の取り組みには大いに期待しています。

「面倒な患者を押しつけられていると思っても、上を向いたババを引きまくれ」、なんて力強くてかっこいい。

斎藤先生の言葉に元気をもらい仕事につなげていきたい。75才でババになりましたが、「家族会の為にもう少し力になれば」と思います。



2021年10月7日
あおぞら家族会 秋月洋子

沖縄市地域活動支援センターおきなわ

沖縄市平和月間への賛同企画♡心のバリアフリー作品展♡今年は、8月16日(月)から8月27日(金)まで沖縄市役所市民ギャラリーにて開催されましたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年は大幅に展示会場と展示期間の縮小、変更がありました。

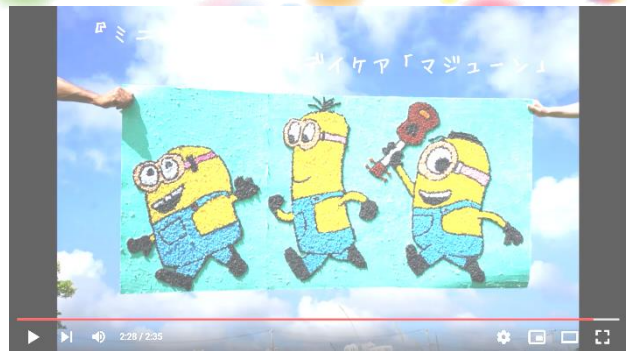
このような状況の中、少しでも多くの方に素晴らしい作品を見て頂きたいとの思いから、今年は新たな取り組みとして10月1日から11月30日までの期間、沖縄市障がい者基幹相談支援センターのホームページにて、今回の展示作品をスライドショーで見て頂ける様にアップしました。今回、お時間がなく沖縄市役所市民ギャラリーまで足を運ぶ事が出来なかった方も、再度作品を楽しみたい方も是非一度ご覧ください。

沖縄市障がい者
基幹相談支援センターホームページ



[https://okicitykikan.com/
uncategorized/933/](https://okicitykikan.com/uncategorized/933/)

左のURLやQRコードから是非ご覧下さい。



10月18日(月)～10月29日(金)までの期間、沖縄市役所で行われた沖縄市ハートフル♡福祉フェア物産展に地域活動支援センターおきなわのみんなで足を運んで来ました。このイベントの☆目的☆は、障がい福祉サービス事業所や精神科デイケア等の商品の販売会の実施を通して、障がい当事者の社会参加の促進、就労意欲の向上と、障がい福祉及び精神保健福祉の普及啓発を目的としているイベントです。たくさんの事業所さんが参加されていて、素敵な作品を見たり、購入したりと、楽しい時間となりました。



ハピンちゅ OKINA 輪

2021年度 家族によるオンライン家族学習会

ハピンちゅ OKINA 輪は、統合失調症などの精神疾患のある親を持つ子どもの立場の会です。

同じ体験をした仲間たちが出会い、支えあいながら活動をしています。今回は、同じ立場の方の為の学習会を開きたいと思います。悩みを周りに言えない、他の人たちはどんな風に過ごしているかを知りたい・・・様々な思いを抱えている方々、どうぞご参加ください。

❤️ 一人で抱えて悩んでいませんか？ ❤️

日 程：令和3年12/18、令和4年1/15、2/5、2/26、3/12 (全て土曜日です)

開催時間：13:00～16:00 (受付開始12:45)

参加できる方：県内在住の子どもの立場の方で、全5回参加できる方

参加費：500円

内容：テキストを使用し、話し合いなどを通して精神疾患について学びます。

担当者：精神疾患の方を家族に持つ5名が担当します。

場所：ZOOM (オンライン)

申し込み先：ハピンちゅOKINA輪

Mail: hapinchuokinawa@gmail.com

下記のQRコードからもお申込みできます



受付〆切 11月30日(火)まで

問い合わせ先 ☎ 933-2011 (月・火・木・金 午後1時～5時)

沖縄市精神療養者家族会「おあしすコール」・「ハピンちゅOKINA輪」

※募集人員：5名程度

希望者多数の場合は参加できないことがあります。学習会とは別に集いなども予定しております。

※この学習会は、全国精神保健福祉会連合会 みんなねつととの共催で行うものです。

「ハピンちゅOKINA輪」会員の担当者以外に、アドバイザーが同席することがあります。

その際、個人情報の保護につきましては、十分に配慮した対応をいたしますのでご安心ください。



県内精神科病院で発生した大規模クラスター 問題の検証と再発防止、本質的解決に向けて

今年7月、8月に新型コロナウイルスによる大規模なクラスター(集団感染)が、精神科病院で相次いで発生した問題について、沖福連と自立生活センター・イルカの連名で、県及び県議会へ緊急要請の文書が、9月2日に提出されました。

県議会への陳情は、10月4日に文教厚生委員会で審議されましたが、精神科病院内でどのようなクラスター対策が取られたのか、県外からDMAT(災害派遣医療チーム)の支援を要請するほどの危機的状況が起きていたにもかかわらず、入院患者の家族にも県民一般にも、透明性のある事実関係の情報公開はなく、どのような医療措置が必要であったのか、再発防止のための具体的な検証の質疑・回答はありませんでした。

精神科病院の医療体制を指導すべき県による関与はどうであったのか、10月11日に、玉城デニー知事に直接面談の上、保健医療部やクラスター対策班から経過を伺いましたが、精神科病院から感染症専門医療機関への転院やゾーニングがほとんどできなかった上に、ワクチン接種が追い付かず、感染が急速に広がり犠牲が拡大したこと、しかし県による当該病院への立ち入り調査は、今もって行われていません。第三者委員会を設置して、具体的な検証と再発防止策が求められています。



**精神科病院での
集団感染調査を
障がい者団体、知事に要請**
うるま記念病院など精神科病院での新型コロナウイルス発生について、県自立生活センター・イルカ(長位鈴子代表)写真左から2人目)と県精神保健福祉会連合会(山田圭吾会長)は11日、県庁で玉城デニー知事らと面会し、原因究明と速やかな公表を求めた。玉城知事は事案について調査を進めていると明言。結果は報告する考えを示した。

要請団からは、精神科病院に入院する際に2週間の経過観察を行う場として、隔離された「保護室」が使われている例があると、人権の観点から問題視する声が上がった。県側は毎年の立ち入り検査の中で確認する考えを示した。
長位さんはクラスターについて、精神科で入院している人は社会と隔離されていることから「利用者に責任はない。なぜ本人に悪いところがないのに死ななければいけないのか」と訴えた。県は障がい理由とした命の選別は行っていないとしたが、適切な感染対策や転院などの手続が足りなかったことが、感染拡大や死亡率を高めたとし、不適切な対応自体が「命の選別」だと訴えた。山田さんは病院内の情報が少ないとし「命に関わる緊急事態」と対応を求めた。
玉城知事は調査結果は「開示できる」とはっきり「開示する」と強調した。調査報告のまとまる時期については明言を避けた。

「みんなねっと精神科医療への提言」

Part 3

前号のパート2に引き続き、みんなねっとの提言をご紹介します。

3. 薬物治療とともに心理社会的支援が当たり前に向けられる方向への転換

現在の精神科医療における治療は薬物治療が中心に進められていますが、それだけでは思うように回復できない病状・障害があります。

薬物治療同様に、**心理社会的支援の重要性**を認識し、誰でもどこでも受けることができるようになることを求めます。

- ① 本人・家族のもとに届けられる多職種チームによる訪問型支援や治療サービスの充実。心理社会的支援を提供するために必要となる多職種での関わりを、危機介入も含む訪問型サービスにまで拡充していけるようにすること。
- ② 当事者の尊厳と意見の尊重（対話型医療・支援の充実）
精神科治療の場において、当事者が自身の体験や思いを語ることがサポートされ、耳を傾けられるようになること。対話を基本とする治療的な関わりと支援の充実。
- ③ ピアサポートの充実（ピアによる活動や家族会支援、家族による家族支援）
ピアサポート活動が活発に行われるように、活躍の場を増やし、その活動が支援されること。（家族による相談活動、家族による家族学習会等）
- ④ 心理社会的リハビリテーションの診療報酬化（家族心理教育、訪問家族支援）
家族心理教育を始めとする家族支援や訪問による家族支援が多くの精神科医療機関・訪問医療機関で実施されるように、その診療報酬化を求める。（家族心理教育・メリデン版訪問家族支援等）

Check!

抱えていた困難に対して、科学的な診断名が与えられ、それに効果があると言われる薬をもらうということは、もしかすると本人や家族にとって「救済」のような意味を持つことがあるかも知れません。ですが、そうした薬の処方に合わせて、さらに人と人との対話に根差した各種のサポートが得られたとしたら、もっともっとリカバリーのイメージも大きく広がるのではないのでしょうか。

「人薬」という言葉がよく言われるようになりました。同じように薬を飲んでいても、もともと元気な人であっても、一人で「やーぐまい」をしていると調子を崩してしまう人がたくさんいます。（増山）

次回は、提言の4を紹介する予定です

「精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議」(要旨) 第63回日弁連人権擁護大会

精神障害のある人に対する人権侵害は、特別な法制度がもたらしている。精神障害のある人だけを対象とした強制入院制度、期限のない施設隔離によって、その人の人生と尊厳を制約。この法制度が差別偏見を規範化し、地域から隔離排除すべきとの誤った社会認識を構造化した。日弁連は、強制入院制度を廃止して、これまでの人権侵害による被害回復を図り、国及び地方自治体に対して多様な施策を実施するようもめるとして、下記のとおり改革の基軸を提起した。(項目のみ列記)

- 1 精神障害のある人に対する医療法・医療制度の抜本的改革
- 2 精神障害のある人の入院に伴う尊厳確保のための手続的保障
- 3 精神障害のある人の地域生活の実現
- 4 精神障害のある人の尊厳の回復及び精神障害のある人に対する差別偏見のない社会の実現
- 5 障害者権利条約の求める、人権の促進及び擁護のための国家機関(国内人権機関)の地位に関する原則(パリ原則)にのっとった国内人権機関の創設及び個人通報制度の導入

日弁連は、精神科病院に入院する人が、いつでも迅速に利用できる弁護士選任制度をすべての弁護士会に創設し、権利擁護のために他の専門職種と連携して必要な態勢を図ることに全力を尽くす決意である。以上のとおり決議する。

2021年10月15日、日本弁護士連合会

◎編集後記◎

新しい場所に移動して約二カ月が過ぎようとしている。
仕事内容も大きく変わり、新たに覚えなれない事がある。一日の終わりに思うことは「今日も一日あつと言う間に終わった、まるでジェットコースターに乗っているみたいだ」☆(お)

編集：公益社団法人

沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0044 福岡市博多区千代 4-29-24

三原第3ビル3F

電話 092-753-9722 FAX092-753-9723

定 価：10円(会費に含まれる)